

## 1章 総合問題1

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

①実はヘレンは自分が昇進するだろうと確信していたので、彼女は自分の昇給が知らされた時に買う車まで選び終えていた。しかし上司はヘレンの同僚の1人をその役職に任命したのだ。②同じ部課の他の従業員がこぞって、ヘレンこそが真にその昇進に値する人物だったのに、とヘレンに言ってみたとこで、彼女がその極度の期待外れに対処する助けにはならないのだ。

B.

#### 全訳

言葉を話すという才能と整然とした言語は、知られているあらゆる人間の集団の特徴である。①言語を持たない種族はこれまで発見されたことがなく、これに反することを言ったとしても、すべて単なる民間伝承として片づけられてしまうだろう。その語彙が極めて限定されているため、身振りを補助的に用いなければやっていくことができない人々があり、その結果、そのような集団に属する人々間の理解可能な意思疎通は暗闇では不可能になるといふ、時折言われることにはまったく根拠がないように思われる。

言語は、知られているあらゆる民族内における意思の表明と疎通の本質的に完璧な手段であるということが、この問題に関する真実である。②文化のあらゆる側面に関して、言語は高度に発達した形態を獲得した最初のものであり、その本質的な完璧さは文化全体としての発達に必要なものである、というのは正しい推測である。

#### 【2】

#### 解答

- (1) ㉠ ranging      ㉡ born      ㉢ lost  
(2) ① b      ② d      ③ a      ④ b      ⑤ c  
(3) 動物の中で人間だけが、生まれる前や死後に別の世代が存在することを認知し、それを知的に伝達でき、また書くことによって、過去の思想や発明の知識を後世に伝えることができるから。(85字)  
(4) 「全訳」の下線部①を参照。  
(5) c  
(6) 「全訳」の下線部②を参照。  
(7) three million      (8) a, c

- (1) ㉞ a brain を修飾する現在分詞にする。  
 a brain ranging around ~ = a brain which ranges around ~  
 ○ range *vi.* 「(年齢・程度・範囲などが) 及んでいる；またがる」
- ① be born 「生まれる」  
 bear の過去分詞 born が用いられるのは、「生まれる」という意味で by ~ が付かない場合と、「生まれながらの；まったくの」の意味の分詞形容詞の時のみ。その他の場合は borne が用いられる。  
*Ex.* I was *born* in Thailand in 1972. [bear の過去分詞]  
 (私は 1972 年にタイで生まれた。)  
*cf.* She is a *born* poet. [形容詞の born]  
 (彼女は生まれながらの詩人である。)  
 Sweet scents are *borne* on soft breeze. [bear の過去分詞]  
 (甘い香りがそよ風で運ばれる。)  
 → 「生まれる」の意味以外では、borne になる。  
 ○ bear *vt.* 「産む」*vi.* 「①もたれる ②向かう ③位置する」  
 「産む」の意の bear に続く in … は「状態」を表し、「…の状態生まれる」という意味になる。
- ㉟ lie C (形容詞 (句), 分詞) 「Cの状態にある；Cのままである」  
 「その過程の始まりは～の中に失われている」という受動の意味を表すので過去分詞にする。
- (2) ① occasion *vt.* 「起こさせる；生じさせる」の過去分詞形。  
 ここでは動詞であることに注意。  
 a limit *vt.* 「制限する；限定する」  
 b cause *vt.* 「～の原因となる；引き起こす」  
 c change *vt.* 「変える」  
 d expect *vt.* 「予期する；予想する」
- ② capacity *n.* 「(～を) 受け入れる能力；定員；容積」  
 a ability *n.* 「能力；才能」  
 b aptitude *n.* 「適性；(学問・芸術修得の) 才能；素質」  
 c fluid *n.* 「流体；流動体」  
 d volume *n.* 「容積；容量；体積」
- ③ dimension *n.* 「寸法；面積；大きさ」の複数形。  
 a size *n.* 「大きさ；寸法」  
 b aspect *n.* 「顔つき；容貌」  
 c ability *n.* 「能力；才能」  
 d flexibility *n.* 「曲げやすいこと；柔軟性」
- ④ alteration *n.* 「変化；変質」  
 a order *n.* 「順序」

- b change *n.* 「変化」
  - c feature *n.* 「特徴」
  - d exception *n.* 「例外」
- ⑤ offspring *n.* 「子；子孫」
- a adolescent *n.* 「青春期の人；10代の若者」
  - b ancestor *n.* 「祖先」 (= forefather)
  - c child *n.* 「子供」
  - d race *n.* 「人種；種族；類」

(3) In this respect 「この点において」というのは直前の2文を指す。

①自分の生存中だけでなくその前後にも他の世代が生存することを認知し、それを知的に伝達できる。

②書くことによって、過去の思想や発明の知識を後世に伝えることができる。

以上①②の要素を必ず含むこと。

○ he is the most burdened animal alive (人間は生きている動物の中で最も重い荷を背負っている)

○ burdened は animal を修飾する過去分詞。

○ alive *adj.* 「生きている」

通例叙述用法のみで用いられる。限定用法の場合は living や live [lárv] を用いる。

(4) Just how, or in what ~ these adjustments first began to be made, is unknown (いったいどのように、あるいはどんな~においてこれらの適応が最初になされ始めたのかは、知られていない。)

Just ~ made までが下線部前半の節の主語になっている (主語になる名詞節)。

<p style="margin: 0;">Just <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">how</span>          (these adjustments first began to be made)          ,(or) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">in what ~ <i>Hominidae</i></span>          these adjustments first began to be made</p>	} is unknown
--	--------------

と考える。

○ just : 疑問詞を強めて「いったい」の意。

○ what : 疑問形容詞「どんな；何の」

◇ these adjustments は 前文の vast neurological adjustments in his infancy を指す。

○ adjustment *n.* 「調整；調節」 *cf.* adjust *vt., vi.*

◇ specific branch of the human evolutionary family collectively known as the *Hominidae* 「ヒト科として集散的に知られる進化上の人間の仲間うちの特定の種族」

○ specific *adj.* 「特定の；一定の」

○ branch *n.* 「(同じ祖先から出た) 分家」

○ evolutionary *adj.* 「発展の；進化(論)の」 (= evolutionary)

*cf.* evolution *n.* evolve *vi.*

○ collectively *adv.* 「集合的に」

○ known は the human evolutionary family を修飾する過去分詞。

cf. be known as ~ (～として知られている)

◇ but without *them* man *could* not be the creature he is 「しかしそれら (= 幼年期における大規模な神経の調整) がなければ, 人間は現在のような生き物にはなり得ないだろう」 仮定法過去の文。without *them* に条件の意味が含まれ, man *could* … が帰結節となっている。

= if it were not for [but for] vast neurological adjustments in his infancy, man could not be ~

○ ℓ. 9 *them* = ℓ. 8 *these adjustments* = ℓ. 6 *vast neurological adjustments in his infancy*

○ the creature (that) he is と補って考えられる。「人間がそうであるところの生き物」《直訳》→「現在人間がそうであるような生き物」

(5) 人間の脳の発達過程の特異性についての文であることから, **c** 「他の動物と比べて」がふさわしい。

**a** just like ~ 「ちょうど~のように」

**b** not to mention ~ 「~は言うまでもなく」

**c** in comparison with ~ 「~と比較すると」

**d** as is often the case with ~ 「~によくあるように」

主節の内容を先行詞とする関係代名詞の *as*。

(6) to master speech and the social world about it を言い換えている部分。

○ take on ~ 「(仕事・責任などを) 引き受ける」

○ in short 「要約すると; 手短かに言うと」

○ the transmitted social habits and learning of ~ 「~の伝えられてきた社会習慣や知識」

the transmitted 

social habits
(and) learning

 of ~ の共通関係に注意する。

transmitted は social habits と learning を修飾する過去分詞。

cf. transmit *vt.* 「(知識・習慣などを) 子孫に伝える」

○ the human world into which it is born and of which it will be expected to be a part は it (the human offspring) is born *into* the human world + it (= the human offspring) will be expected to be a part *of* the human world と考える。

(7) ○ 99万までは thousand を基準 (nine hundred (and) ninety thousand)

○ 9億9千万までは million を基準 (nine hundred (and) ninety million)

○ 9千900億までは billion を基準 (nine hundred (and) ninety billion)

(8)

**a** ℓ. 14 At birth the human cranial capacity is only slightly larger than the gorilla's, averaging around 330 cc (誕生時の人間の頭蓋容積は, ゴリラよりもほんのわずか大きく, 平均約 330cc である)

ℓ. 9 His surviving relatives, the great apes — the gorillas, for example — are born with an average cranial capacity of some 280 cubic centimeters (例えばゴリ

ラのような、現在生き残っている人間と親類である大きな類人猿は、約 280cc の平均頭蓋容積を持って生まれる。）

以上の2つの文を参照する。

- b ℓ. 9～13「ゴリラは平均頭蓋容積 280cc で生まれ、約 14 歳まで平均したペースで脳が大きくなり、470cc の脳を持つに至る」と述べられているが、「14 歳以降急速に発達する」という記述はない。
- c ℓ. 17 Unlike that of the gorilla, the brain of the human child grows with a prodigious spurt in the second year of life, its capacity shooting upward to almost 1,200 cc and going on to reach 1,375 cc by its fourteenth year. (ゴリラの脳と違って、人間の子供の脳は、生まれて2年目で驚異的な速さで大きくなり、その容積はほぼ 1,200cc まで急成長し、さらに成長を続けて14年目までには 1,375cc に達する。) とある。ℓ. 14 に人間の子供は約 330cc の頭蓋容積を持って生まれてくるとあるので、これらの数値から2歳までの成長の度合いの方がずっと高いことがわかる。
- d 14 歳時のゴリラの脳 → (ℓ. 12) 470 cc。 2 歳時の人間の脳 → (ℓ. 19) 1,200 cc。1.5 倍ではない。
- e 本文中に記述なし。
- f ℓ. 15～16 The reason lies in the fact that the human infant, like the gorilla, has to enter the world through a birth canal of limited dimensions (その理由は人間の子供もゴリラ同様、限られた狭い産道を通してこの世に生まれて来なければならない という事実にある) とある。人間の脳は誕生後に急成長するのである。
- g 本文中に記述なし。

#### 全訳

人間は言語という道具を使って世代と世代を結びつけるので、時間を結ぶ者と呼ばれてきた。人間は、自分の生まれる前にも死んだ後にも、幾世代もの人が存在することを知っており、それを知的に伝達できる地球上の唯一の動物である。さらに、人間は同様に、文字を書くことによって、過去の人が考えたこと、考え出したものに関して知っていることを、遠い未来まで伝えることができる。この点で、人間は生きている動物の中で、最も重い荷を背負っているのである。そして、こうした事実は、人間の幼年期に大幅な神経調整をしなければならなくさせているのである。⑤いったいどのようにして、そしてヒト科として知られている人間の進化しつつあった種族のどれが最初にこのような調整を始めたかは知られていないが、しかし、幼年期に大幅な神経調整が行われなければ、人は現在のような生き物にはなり得ないだろう。例えばゴリラのような、現在生き残っている人間と同類の動物である大型類人猿は、約 280cc の平均頭蓋容積を持って生まれる。誕生後、ゴリラの脳はだいたい 14 歳まで平均的な速度で大きくなり、この巨獣は約 470cc の脳を所有するようになる。

人間の頭蓋容積は、誕生時にはゴリラのものよりほんのわずかに大きく、平均約 330cc である。その理由は、人間の赤ん坊がゴリラと同じように、狭い産道を通して、この世に生まれてこなければならないという事実にある。人間の場合、不思議な方法でこの大事件の備えをしている。ゴリラの脳と違って、人間の子供の脳は生まれて2年目で驚異的な速さで大きくなり、その容積はほぼ 1,200cc まで急成長し、さらに成長を続けて14年目までには 1,375cc

に達する。これは、脳の成長における驚くべき変化である。つまり、時間を結びつける者であり、また言葉を使う者である人間の脳は、極めて未成熟な状態で生まれるが、その状態は、誕生後のほとんど爆発的とも言える急激な成長速度によって、速やかに修正されるのである。

これが、他の動物に比べて、人間の子供が親の世話に大きく依存しているように思われる理由である。子供の肉体は、誕生後、言語とまわりの社会のことを習得しなければならない脳の拡大に没頭する。脳は、④つまり、子供が生まれてきて、やがてその一員となることを期待される人間世界の、昔から伝えられてきた社会習慣や知識を引き受けなければならないのである。人間は進化するうちに何らかの方法で、誕生後の子供の脳のこうした急速な成長によって狭い産道というわなを逃れつつ、人間として十分に機能を果たすようになったのである。この過程がいつ始まったかは、先史時代、おそらく300万年以上前の闇の中に失われている。人間は、自分の意識的にしたものの功績を自慢するのを好むが、人間の脳、そして人間の一番大切な目に見えない道具である言語は、発見するという人間の能力を絶えず刺激し続けてきた神秘的な自然の贈り物なのである。

**注**

ℓ. 1 ◇ time-binder 「時間を結びつける人」

○ bind *vt.* 「①縛る；結ぶ；束ねる ②束縛する；義務づける」

*cf.* be bound to … 「…しなければならない」

ℓ. 2 ◇ He is the only animal on Earth who knows and is able to communicate intellectually that …

○ ~ who 

[	knows (and) is able to communicate intellectually	]	that …
---	---	---	--------

共通関係に注意する。

○ that … は knows と communicate の目的語になる名詞節。

ℓ. 3 ◇ there have been generations before him and (there) will be (generations) after him 「彼が生まれる前にも後にも何世代もある」《直訳》→「自分の生まれる前にも死んだ後にも人間は生存する」

ℓ. 4 ◇ Furthermore 「おまけに；その上」

◇ he can similarly transmit into the far future, (挿入), knowledge of the thought and inventions of the past

○ similarly *adv.* 「類似して；同様に」 *cf.* similar *adj.*

○ transmit O into [to] ~ 「Oを～に伝える」

O (= knowledge of the thought and inventions of the past) が長いために後置されている。

◇ by means of ~ 「～ (の手段) によって」

ℓ. 5 ◇ respect *n.* 「点；箇所；事項」

ℓ. 6 ◇ occasion *vt.* 「〈人に〉 (心配など) を起こさせる」

◇ in his infancy 「人間の幼児期において」

○ infancy *n.* 「幼少 (であること)；幼年時代」 *cf.* infant *n., adj.*

- ℓ. 7 ◇ evolutionary *adj.* 「進化の」
- ℓ. 9 ◇ His surviving relatives, the great apes  
 ○ His surviving relatives と the great apes は同格。  
 ○ surviving は relatives を修飾する現在分詞。  
 ○ relative *n.* 「同類の動物〔植物〕」  
 ○ great apes 「大型類人猿」
- ℓ. 11 ◇ cubic centimeters 「立方センチメートル」 (= cc)  
 ○ cubic *adj.* 「立方の」 *cf.* square *adj.* 「平方の」  
 ◇ After birth the gorilla brain grows at an average pace until, at the age of about 14 years, this giant beast will possess a brain ranging around 470 cubic centimeters 「誕生後ゴリラの脳は、約14歳の時にこの巨獣が約470ccに及ぶ脳を持つに至るまで、平均的なペースで成長する」《直訳》→「誕生後、ゴリラの脳はだいたい14歳まで平均的なペースで大きくなり、この巨獣は約470ccに及ぶ脳を所有するようになる」  
 ○ this giant beast = gorilla  
 ○ ranging は a brain を修飾する現在分詞。
- ℓ. 14 ◇ gorilla's (cranial capacity) と省略がある。  
 ◇ averaging around 330 cc は the human cranial capacity を修飾。  
 = the human cranial capacity *which averages* around 330 cc  
 ○ average *vi.* 「平均が～となる」
- ℓ. 15 ◇ The reason lies in the fact that … 「その理由は…という事実にある」  
 ○ lie in ～ 「(事実などが) ～にある；見いだせる」 (= consist in)  
 ○ that … は the fact と同格。
- ℓ. 16 ◇ Nature has prepared for this event in the case of man in a curious way 「人間の  
 場合、自然は珍しい方法でこの出来事に備えている」《直訳》→「人間はこれに珍  
 しい方法で対処するようできている」  
 ○ prepare for ～ 「～に備えて準備する」  
 ○ this event 「人間の子供が狭い産道を通して生まれてくること」  
 ○ in the case of ～ 「～の場合」
- ℓ. 17 ◇ Unlike that of the gorilla = Unlike *the brain* of the gorilla  
 ○ 同一語の反復を避けるための that。  
 ‘the + 名詞’ の代わりに用い、通例後に修飾語句を伴う。
- ℓ. 18 ◇ its capacity shooting upward to almost 1,200 cc and going on to reach 1,375 cc by  
 its fourteenth year  
 ○ 付帯状況を表す分詞構文。  
 = and its capacity shoots upward to almost 1,200 cc and goes on to reach ～  
 ○ it = the brain of the human child  
 ○ shoot upward to ～ 「～まで急増する」  
 ○ go on to reach ～ 「～に至るまで(成長が)続く」

- ℓ. 20 ◇ It means that … 「それは…ということの意味する」  
 ○ it は前文の内容を指す。  
 ○ that … は mean の目的語になる名詞節。  
 ◇ the time-binder, the speech-user は ℓ. 20 the human brain の言い換え。
- ℓ. 21 ◇ that は an extremely immature condition を先行詞とする関係詞。
- ℓ. 22 ◇ rectify *vt.* 「修正する；訂正する」
- ℓ. 23 ◇ offspring *n.* 「(人；動物の) 子」(集合的に) 単数扱い。
- ℓ. 24 ◇ Its body is engaged in enlarging *after birth* the brain that will have to … 「その体は誕生後…しなければならない脳を大きくすることに従事する」《直訳》  
 ○ it = the human offspring  
 ○ be engaged in …ing 「…することに従事する；没頭する」  
 ○ that は the brain を先行詞とする関係代名詞。
- ℓ. 25 ◇ about it = around the human offspring  
 ◇ take on 「受け入れる」
- ℓ. 27 ◇ Nature has somehow provided in the course of evolution that … 「自然は何らかの方法で、進化過程において…ということを決めた」《直訳》  
 ○ somehow 「何らかの方法で；何とかして」  
 ○ provide that … 「(法律・人などが) …と規定する；定める」that 節は文末に注意する。  
 ○ in the course of ~ 「～の間に」  
 ◇ this exponential growth of the child's brain after birth will evade ~ 「誕生後の子供の脳のこの急激な成長が～を逃れる」《直訳》  
 ○ evade *vt.* 「(攻撃・敵などを) 逃れる；避ける」
- ℓ. 28 ◇ the trap of the narrow birth canal 「狭い産道というわな」  
 ○ 同格関係を表す of 。
- ℓ. 29 ◇ a fully functioning human being 「十分に機能を果たす人間」
- ℓ. 30 ◇ boast of ~ 「～を自慢する」(= brag ~, be proud of ~)  
 ○ 同じ「自慢する」という意味でも、brag と boast は「鼻にかける」という否定的な意味合いが強い。
- ℓ. 31 ◇ speech は his most important invisible tool の言い換え。
- ℓ. 32 ◇ that mysterious nature that … 「…する神秘的な自然」  
 ○ that A that … 「…する A」  
 ○ 先行詞にかかる that は日本語に訳出する必要は特になし。  
 ◇ cease to … 「(次第に) …しなくなる」  
 ◇ intrigue *vt.* 「～の好奇心をそそる」

### 【3】

#### ポイント

一連の文、あるいは会話文中のいくつかの空所に指定された条件を満たす英文を補う、という形式の問題である。自分の意見を求められるような問題とは違って、文章を一から組み立てる力というものは要求されていない。ここで必要なのは、指定された語数で指定された内容を正確に、簡潔に伝える力、日常会話でよく使われる表現を知っていること、そして、前後の文脈と自然につながるような英文を書くことである。したがって、この問題で使うような表現は、自然に口から出るくらいまで、しっかりと身に付けてほしい。

#### 解答例

- ① I called you from the airport, but I couldn't get in touch with you because your phone was busy. (19 語)
- ② Well, do you have any plans for tonight? If not, I'd like to have dinner with you. (17 語)
- ③ I'll pick you up at seven o'clock at your hotel. Let me take you to a nice Chinese restaurant. (19 語)

#### 別解

- ① I tried to contact you by phone from the airport, but your line was busy. (15 語)
- ② I thought maybe we could have dinner together this evening, if you have free time. (15 語)
- ③ I'll treat you to some delicious Chinese cuisine. I'll pick you up at your hotel around seven. (17 語)

#### 解説

今回の問題は空所に補うそれぞれの英文の内容も指定されていて、語数もそれほど多くはないので、多くの内容を加えることはできない。また、会話の内容もごく日常的なものなので、複雑な構文や難解な語句を使う必要はまったくない。前後の文脈をしっかりとつかみ、指示された内容をもれなく含めること、また、語句や構文を正しく使うことを念頭に置いて作文することが肝要である。

ここでは、青木氏がニューヨークへ行き、旧友の Green 氏にホテルから電話をかけ、久々に会うことになる、という状況を押さえること。

- ① 「君に電話した」は I called you, I tried calling you, I tried to contact you by phone など。「空港から」は from the airport。「話し中だった」the line was busy, your phone was busy のようにする。「～と連絡をとる」get in touch with ~ = contact ~
- ② 「今夜は暇ですか」疑問文では Are you free tonight [this evening]?, Do you have any plans for tonight? など。if 節で if you are free tonight などでも可。  
「一緒に食事をしたい」I would like to have dinner with you など。How about having dinner together? のようにしてもよい。
- ③ 「君を迎えに行く」pick you up とする。「ホテルに迎えに行く」なら pick you up at your hotel とする。「料理」cuisine。ここでは「中華レストランへ行く」と表現して問題ない。「～ (=人) を…に招待する；…に～をもてなす」treat ~ to …。

Ex. He *treated* me to a drink. (彼が僕に1杯おごってくれた。)

**全訳**

青木氏：こんにちは。グリーンさんとお話したいのですが。

グリーン氏：私がグリーンです。君は親友の青木和彦だね。すぐに君の声だとわかったよ。

元気だったかい？ うれしい驚きだね。今ニューヨークにいるのかい？

青木氏：そうだよ。ほんの3時間前くらいに到着したんだ。① \_\_\_\_\_

グリーン氏：今どこから電話しているんだい？

青木氏：グランドホテルから。ここに今夜泊まることになっているんだ。② \_\_\_\_\_

グリーン氏：もちろんだとも。③ \_\_\_\_\_

青木氏：それはいいね！ 待っているよ。

**【4】****解答・解説**

(1) too busy to

「彼はとても忙しいので、その会合に出席できなかった。」

○ too ~ to ... 「~すぎて…できない」

(2) impossible to

「彼がどんなつもりであんなことを言ったのかわからない。」

there is no ...ing = it is impossible to ...

○ remark 「(～についての) 所見」

(3) to be fixed

「この機械は修理する必要がある。」

○ need ...ing = need to be 過去分詞 「…される必要がある」

(4) seeing, seeing, worth seeing

「日光は見てみる価値がある。」

○ 「…する価値がある」を worth を用いて表現すると次の4通りがある。

It is worth while to ...

It is worth while ...ing.

It is worth ...ing.

S is worth ...ing.

**【5】****解答・解説**

(1) To make matters

○ to make matters worse 「さらに悪いことには」

(2) view to becoming

○ with a view to [of] ...ing 「…する目的で」

○ cram 「詰め込み勉強」

(3) for you to

形容詞用法の to 不定詞に意味上の主語がついた形。

- (4) busy preparing  
 ○ be busy …ing 「…するのに忙しい」  
 ○ prepare for ~ 「~の準備をする」
- (5) spend, learning  
 ○ spend O …ing 「…してO (時間) を過ごす」  
 ○ learn *one's* own mother tongue 「母語を習得する」

## 【6】

### 解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第2版』の参照番号を示す。

- (1) much of  
 ○ make A of B 「BをAのように思う〔理解する〕」の意味の make。  
 make much of ~ 「~を重視する；~を理解する (否定文で)」 ◆2  
 make little of ~ 「~を軽視する；~をほとんど理解できない」 ◆3  
 make light of ~ 「~を軽視する」 ◆4  
 make nothing of ~ 「~を何とも思わない；~をまったく理解できない」 ◆5
- (2) best of  
 ○ make the best of a [the] bad job 「困難な状況で最善を尽くす」  
 ○ make the best of ~ 「~を何とかうまく切り抜ける」 ◆23
- (3) most of  
 ○ make the most of ~ 「~を最大限に活かす」  
 ※短い休暇を「不十分なもの」と考える場合、make the best of ~ も可。 ◆22
- (4) made use [taken advantage]  
 ○ make use of ~ 「~を利用する」 ◆21  
 ○ take advantage of ~ 「~を利用する」 ◆24
- (5) rise to  
 ○ give rise to ~ 「~を引き起こす」 ◆52
- (6) made friends  
 ○ make friends with ~ 「~と親しくなる」 ※常に複数形で用いる表現。  
*cf.* change trains (電車を乗り換える) ◆35
- (7) part in  
 ○ take part in ~ = participate in ~ 「~に参加する」 ◆31
- (8) little of [解説 (1) 参照] ◆3
- (9) no notice  
 ○ take notice of ~ 「~に注意を払う」 ◆44
- (10) take, pride  
 ○ take pride in ~ = pride *oneself* on ~ = be proud of ~ 「~を誇りに思う」 ◆26
- (11) prides herself [解説 (10) 参照]
- (12) company with

- keep company with ~ 「～と交際する」 ◆ 36
- (13) make sense
  - make sense of ~ 「～を理解する」 ◆ 8
- (14) charge of
  - take charge of ~ 「～を担当する」 ◆ 14
- (15) better of
  - get the better of ~ 「～に勝つ」 ◆ 39
- (16) help yourself to
  - help *oneself* to ~ 「～を自由にとって食べる」 ◆ 46
- (17) way [in] to
  - give way to [give in to] ~ 「～に屈する [譲る]」 ◆ 50
- (18) account of [into consideration [account]]
  - take account of ~ = take ~ into account 「～を考慮する」 ◆ 40
  - 後置された形と考えると, into consideration [account] も可。
- (19) to ourselves [between ourselves]
  - keep ~ to [between] *oneself* 「～を人に話さないでおく」 ◆ 53
- (20) brought [drove] home
  - bring [drive] home to A B 「AにBを痛感させる」 [= bring [drive] B home to A]
  - 副詞の home (十分に)。 ◆ 56

## 2章 総合問題2

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

①「1名を除く全人類が同一の意見を持ち、1名だけがそれとは反対の意見を持っているとしても、全人類がその1名を沈黙させることは正当ではなかろう。それは、その1名に黙らせる権力があるとしてもその人が全員を沈黙させることが正当ではないのと同様である。」とミルは叫んだ。孤独な変人の言い分が常に、あるいは現実性の高い言い方をすれば、しばしば正しいからではなくて、②たとえその人の言い分が間違っているとしても、その現行の意見の支持者たちは、その人を沈黙させれば、きわめて貴重なもの、すなわち真理が錯誤と衝突することによって生じる真理のより明確な把握とより鮮明な印象とを失うことになる。一方でまた、その孤独な思索家の言い分が正しいならば、その人を沈黙させることによって、人類は錯誤をより真理に近いものと交換するという測り知れない恩恵を享受する機会を失ってしまうことになる。人間は皆、討論と論争とによって学習する。③論争が沈黙させられれば、単に錯誤が無制限にはびこり得るばかりでなく、真理そのものもより弱々しく生気に乏しく保持されることになる。

B.

#### 全訳

鏡をよく見ると、外見は一目見て左右対称に見えるにも関わらず、顔は実際は左右対称でないことに気がつく。そして、顔の両側で微妙な肉体的相違があるのとちょうど同じように、両側の感情的表現にも差があることがわかる。この現象を調査するために、英国の研究者は、まず10人の男性の写真を撮り、各々の写真を2度、1度は普通のやり方で、もう1度は左右反転して印刷した。次にその写真を真ん中から縦に裂いて、それぞれの半分を左右対称の画像とくっつけた。④その結果出来上がった合成写真は、2つの「左」側と2つの「右」側を合わせた完全に左右対称の顔であった。次に20人の女性が、50の単語のリストから各々の写真に写った人物を最もうまく描写する10語を選んだ。そのリストには、「内気な」「正直な」「冷たい」などの感情的な意味合いの強い単語25個と、「自信がある」「不注意な」「利己的な」などの感情的色彩のない単語25個が含まれていた。⑤その女性達は、感情的色彩のない形容詞より、感情的意味合いの強い形容詞を、右側よりは左側の合成写真に、ずっと多く当てはめた。これは特に注目に値することだった。というのは、すべての写真は「休んでいる顔」を写していて、つまり、明らかな感情的内容のない顔だったからである。⑥科学者は、一般に顔の左側の方が右側より感情を表すことは、かなり前から知っていたが、その理由はまったく明らかでなかった。中には、顔の両側の筋肉は反対側の脳に支配されているので、左側が感情的に優れているのは、脳の右半球がこういう感情の表出を専門に司っているしるしだという説を述べる学者もいる。

【2】

解答

- (1) 「全訳」の下線部 ①, ②, ③ を参照。  
 (2) ①人間が今日比類なき破壊力を持つ兵器を所有していること。  
 ②大部分の動物に生得の、同種は殺さないという安全装置が人間には欠けているように思われること。

解説

- (1) ① ◇ One difficulty is that there is no clear dividing line between A and B 「1つの難しさは、A と B との間に、明確な境界線がないということである」  
 ○ dividing line 「分ける線」《直訳》→「境界線」  
 ○ between A and B 「A と B との間に」  
 ◇ those forms of aggression which we all deplore 「我々誰しもが非難する種類の攻撃」  
 ○ form *n.* 「形態；種類 (kind, sort より固い語)」  
 ○ those A which [who] … 「…するその A」  
 ○ deplore *vt.* 「①嘆く ②非難する；遺憾とする」  
 ◇ those (forms) which we must not disown 「自分にあると認めなければならぬ種類の攻撃」  
 ○ disown *vt.* 「自分のものだと認めない；勘当する」  
 ◇ if we are to survive 「我々が生き残ろうとするならば」  
 ○ be 動詞 + to … 「①予定 ②運命 ③義務；命令 ④可能 ⑤意志」  
 (この用法の場合、普通 'if S is [are] to ~' の形で用いられる。)
- ② ◇ Without the aggressive, active side of his nature 「人間の攻撃的、活動的な側面がなければ」  
 ○ 条件の意味を含む副詞句。  
 ◇ man *would* be even less able than he is to … or to ~ 「人間が…したり、～したりする能力は今よりもずっと劣っているだろう」〔仮定法過去の帰結節〕  
 ○ even：ここでは比較級を強める用法。  
 ◇ to direct the course of his life or to influence the world around him 「自らの人生の進路を決定したり、自らの周囲の世界に影響を与えたりする」
- ③ ◇ it is obvious that … 「…ということは明白である」  
 ○ it は that … 以下を指す形式主語。  
 ◇ man *could never have attained* his present dominance 「人間が現在の優勢を成し遂げることは決してできなかったであろう」〔仮定法過去完了の帰結節〕  
 ○ attain *vt.* 「(目的・望みなどを) 成し遂げる；達成する」 *cf.* attainment *n.*  
 ○ dominance *n.* 「優越；支配」 *cf.* dominant *adj.*, dominate *vt.*  
 ◇ nor even *have survived* as a species 「また種として生き残ることさえも決してできなかったであろう」〔仮定法過去完了の帰結節〕  
 ○ nor 「《no, not, never などの後で》～もまた (…し) ない」

○ as 「～として〔前置詞〕」

○ species [spɪˈʃiːz] *n.* 「(動植物分類上の) 種」〔単複同形〕

◇ *unless he possessed a large amount of inborn aggressiveness* 「もし、人間が莫大な量の生得の攻撃性を持っていなかったら」《直訳》→「もし、人間が生まれつきとも攻撃的でなかったら」〔假定法過去完了の条件節〕

(2) 下線部の前の部分が 'and since …' と理由を述べる接続詞で始まっていることに注目する。

◇ *it is not beyond possibilities that …* 「…ということは可能性の範囲を越えてはいない」《直訳》→「…ということもあり得なくはない」

○ *it* は *that …* を指す形式主語。

○ *beyond* ～ 「～の範囲を越えて」

*e.g. beyond belief* (信じられない)

◇ *he may yet cause the total elimination of mankind* 「人間はいつか人類の滅亡を引き起こすかもしれない」《直訳》

○ *yet* はここでは「やがて；いつか」の意。

○ *cause* ～ 「～の原因になる；～をもたらす」

○ *total adj.* 「①全体の ②完全な」

○ *elimination n.* 「除去；削除」*cf. eliminate vt.*

#### 全訳

人間が行う攻撃について書くことが困難な仕事になっているのは、この言葉が実にさまざまな意味で用いられているためである。攻撃とは、誰もが知っているが、それにもかかわらず定義し難い言葉の1つである。④1つの難しさは、我々がみんな嘆かわしく思う種類の攻撃と、我々が生き残るつもりならば認めなければならない種類の攻撃との間に明確な境界線がないということである。子供が権威に反抗する時、その子は攻撃的になっているが、成長過程の必要かつ貴重な部分をなす、独立への衝動を示してもいるのである。権力に対する欲望は、極端な形を取ると、我々誰もが認めるような破壊的な面を持っているが、困難を克服したいという衝動、言い換えれば外部の世界を征服したいという衝動は、人間の業績の中で最も偉大なものの基礎となっている。

人間の性質の攻撃的な部分は、略奪的な攻撃に対して必要な防衛手段であるばかりではない。知的な偉業、独立の達成、そして仲間うちで毅然とした態度を取らせるあの真の自尊心さえもが、またその攻撃性を基盤としている。⑤人間の攻撃的そして活動的な側面がなければ、人間が自分の人生の進路を決定したり、自分の周囲の世界に影響を与えたりする能力は今よりもずっと劣っていることだろう。⑥それどころか、人間が生まれつきとも攻撃的でなかったら、人間が現在の優勢を成し遂げることも、また種として生き残ることさえも決してできなかったであろうということとは明白である。

人間に並外れた成功をもたらしたまさにその特質が、同時に最も人間を滅ぼしかねない特質でもあるというのは、悲劇的な逆説である。進路上にある邪魔に見えるものをすべて征服、あるいは破壊したいという人間の冷酷な衝動は、自らの仲間に対しても踏みとどまるということはない。そして今、人間は比類なき破壊力を持った兵器を所有し、また大部分の動物に

生得の、同種は殺さないという安全装置が人間には欠けているように思われるために、人間がいつか人類を全滅させてしまうということもあり得ないことではないのである。

注

- ℓ. 1 ◇ To write about human aggression 「人間の行う攻撃について書くこと」  
○ 文全体の主語になっている。  
○ aggression *n.* 「攻撃；侵略；暴行」 *cf.* aggressive *adj.*  
◇ the term 「その言葉」 (= aggression)
- ℓ. 3 ◇ define *vt.* 「定義する；明らかにする」 *cf.* definition *n.*
- ℓ. 5 ◇ rebel *vi.* 「反逆〔反抗〕する」 *cf.* rebellion *n.*, rebellious *adj.*  
◇ authority *n.* 「権威」 *cf.* authorize *vt.*
- ℓ. 6 ◇ but it is also manifesting ～ 「しかし、それは～を表してもいる」  
○ it = a child  
○ manifest *vt.* 「明らかにする；表す」 *adj.* 「明らかな」  
◇ a drive towards independence which … 「…のような独立への衝動」  
○ drive *n.* 「衝動」  
○ independence *n.* 「独立」 (⇔ dependence 「依存」)
- ℓ. 7 ◇ The desire for power has, (挿入), disastrous aspects which … 「権力に対する欲望は、…のような破壊的な一面を持つ」  
○ disastrous *adj.* 「災害の；悲惨な；破壊的な」 *cf.* disaster *n.*  
◇ in extreme form 「極端な形をとると」
- ℓ. 8 ◇ acknowledge *vt.* 「認める」  
◇ but the drive to ～, or …, underlies the greatest of human achievements  
○ to ～, or to … は to 不定詞の形容詞用法で the drive を修飾する。  
○ underlie *vt.* 「～の下にある；～の基礎となる」  
○ achievement *n.* 「①達成；到達 ②業績」  
◇ conquer *vt.* 「征服する；克服する」 *cf.* conquest *n.*  
◇ mastery *n.* 「①支配；統御 ②勝利；優越 ③熟達；精通」
- ℓ. 9 ◇ external *adj.* 「外の」 (⇔ internal)
- ℓ. 10 ◇ human nature 「人間の性質；人間性」  
○ nature 「①自然 ②本性；性質 ③種類 ④活力；体力」  
◇ safeguard *n.* 「保護物；安全装置；防衛手段」
- ℓ. 11 ◇ predatory attack 「略奪的な攻撃」  
◇ It is also the basis of A, of B, and even of C 「それはまたAやBやCさえもの基盤なのである」  
○ It = the aggressive part of human nature  
○ basis of ～ 「～の基本」  
○ A = intellectual achievement  
○ B = the attainment of independence  
○ C = that proper pride which … his fellows

- ℓ. 12 ◇ that proper pride which enables a man to hold his head high among his fellows  
「仲間うちで毅然とした態度を取ることを可能にするあの真の自尊心」
- proper *adj.* 「本当の」
  - enable O to … 「Oが…するのを可能にする」
  - hold one's head high 「毅然としている」
- ℓ. 17 ◇ It is a tragic paradox that … 「…というのは悲劇的な逆説だ」
- It は that … を指す形式主語。
  - ◇ the very qualities which have led to ~ 「~を引き起こしたまさにその特質」
  - the very ~ 「まさにその~」
  - lead to ~ 「~に通じる；~につながる；~を引き起こす」
  - ◇ extraordinary *adj.* 「並外れた」 (extra 「領域外の」 + ordinary 「普通の」)
- ℓ. 18 ◇ ~ are also those most likely to destroy him 「~はまた最も人間を滅ぼしかねない特質でもある」
- those = the qualities
  - ◇ His ruthless drive to ~ or to … does not stop short at his own fellows 「人間の~, あるいは…したいという冷酷な衝動は、自らの仲間に対しても踏みとどまることがない」
  - His ruthless drive to ~ or to … in his path まだが主語になる。
  - ruthless *adj.* 「冷酷な」
  - stop short at ~ 「~にまで至らない；~の手前で踏みとどまる」
  - ◇ subdue *vt.* 「征服する；支配する」 (= conquer)
- ℓ. 19 ◇ every apparent obstacle in his path 「進路上のすべての邪魔に見えるもの」
- apparent *adj.* 「①明白な ②見たところ ③はっきりと見える」
  - obstacle *n.* 「障害；妨害」
  - ◇ since he now possesses weapons of unparalleled destructiveness 「なぜなら人間は今や比類なき破壊力の兵器を所有しているから」
  - since … 「…なので」 (「理由」を表す接続詞)
  - possess *vt.* 「所有する」
  - unparalleled *adj.* 「並ぶものがない；無比の」 *cf.* parallel *adj.* 「平行の」
  - destructiveness *n.* 「破壊的なこと」  
*cf.* destructive *adj.*, destruction *n.*, destroy *vt.*
- ℓ. 20 ◇ and also apparently lacks ~ 「また~を欠いているようでもある」
- apparently *adv.* 「見たところは~らしい」
  - ◇ the built-in safeguards which … 「…という生得の安全装置」
  - built-in *adj.* 「作り付けの；本来備わった」
- ℓ. 21 ◇ prevent most animals from killing ~ 「たいていの動物が~を殺すことを妨げる」《直訳》
- prevent O from …ing 「Oが…することを妨げる」

【3】

全訳

Some people are disappointed about young people not reading much these days, but it's not anything to worry about. There are many fields where it is easier to understand through media pictures than by written words. Foreign affairs, for example, are much easier to understand through TV. ① It would be wrong for you to make a quick decision

5 that young people today have less intellectual desire just because they read fewer books than before. I don't think that you have to be pessimistic about them, as long as they satisfy their intellectual desire through the (mass) media other than books. However,

② I have some doubts about recent college students (who are) absorbed in reading comics on the train.

別解

① It would be wrong to jump to the conclusion that young people now have less intellectual desire, just because they read fewer books than before.

② I just cannot understand college students these days when I see them lost in reading comics on the train

解説

まず下線部①を以下の STEP に沿って考えてみよう。

◇STEP 1 日本文を読み換える～何を言おうとしているのか～

まず日本文を整理するために、「本を読む量が減った」の部分をも A, 「今の若い人の知的欲求が少なくなった」を B と置き換えてみる。すると全体は「A だからといって、B と即断しては間違いでしょう」というすっきりした形になるだろう。ここからさらに英文を組み立てやすくするために、日本文を読み換えて考えてみよう。

「A だからといって、B と即断しては間違いでしょう」

→ (ア) 「ただ A だという理由で B だと即断すれば、間違いでしょう」

→ (イ) 「ただ A だという理由で B だと即断することは、間違いでしょう」

→ (ウ) 「A は B を意味すると即断することは、間違いでしょう」

これで英文全体の骨組みが浮き彫りになってきた。

次に A と B の部分を読み換える。SVO の文型が使えるようにしておくのがポイント。その際、主語が何なのかを考えるとよい。特に、日本文で主語が明示されていない場合は自分で補って考えることが必要になる。

A 「本を読む量が減った」 → 「今の若い人は (以前よりも) 少ない本を読む」

S O V

B「今の若い人の知的欲求が少なくなった」

→「今の若い人は（以前よりも）少ない知的欲求を 持っている」

S O V

◇STEP 2 英語に直す

(ア)～(ウ)の骨組みを英語にしてみよう。

(ア) It [You] would be wrong if you ~

(イ) (ウ) It would be wrong to ~

この後ろに(ア)(イ)の場合は just [only, simply] because A を続けられよう。

まずAは前述のように主語を補って young people today read fewer books (than before),

Bは young people today have less intellectual desire と表せる。

「…と即断する」は「すぐに判断する；急いで結論を出す」ということなので, decide quickly that … とか make a quick decision that … が使える。また jump to the conclusion that … (…と早合点する) という定番表現を活用してもよいだろう。ところで一体誰が「即断する」のだろうか。ここでは一般の人と考えられるので you とか we などを主語にするのが適切。

It		would be wrong if you		decide quickly that		B, just because A
You		would be wrong to		make a quick decision that		the fact that A means B
				jump to the conclusion that		

それでは、下線部⑤についても STEP に沿って考えてみよう。

◇STEP 1 日本文を読み換える～何を言おうとしているのか～

下線部⑤については「ひっかかりますね」という部分が難しい。ここでは「気になる」「合点が行かない」「腑に落ちない」「首を傾げたくなる」「なんとなく反発を感じる」などと解釈できそう。また「最近の大学生が…になっている姿」は「姿」ととらわれなくて、「～が…になっていること」とか「…になっている～」と読み換えたり、「～が…になっているのを見ると」と解釈すれば英語で表現しやすくなる。

◇STEP 2 英語に直す

「最近の大学生」は recent college students, college students these days, college students (of) today などとすればよいだろう。「マンガ」は comic books か単に comics と表せる。「～に夢中になっている」はおなじみの be absorbed in ~, be lost in ~ で表現できる。「～にひっかかる」は上記のように「気になる」と解釈すれば I'm concerned about ~, 「合点が行かない」「腑に落ちない」と考えれば I just cannot understand ~, 「首を傾げたくなる」なら I have some doubts about ~, 「なんとなく反発を感じる」なら I have something against ~ という具合にいろいろな表現が考えられる。

【4】

解答

(1) She pretended ignorance, which made me still more angry.(.)

(2) He was betrayed by the man who he believed was his right hand.(.)

- (3) What is done cannot be undone.(.)  
 (4) He gave the man what little money he had.(.)  
 (5) Take whatever [what] measure you think is best.(.)  
 (6) As is often the case with him, he did not show up on time.(.)  
 (7) (We do not envy a good fortune) which we know to be out of our reach.(.)

**解説**

- (1) ○ pretend ～「～を装う」  
 ○ ignorance 「知らないこと；無知」 cf. ignorant (無知の)  
 …, which ～：前文の内容を先行詞として、補足説明をするためにはコンマを用いた非制限用法の which を用いること。  
 (= …, and that made me still more angry)  
 still は比較級を強める副詞。
- (2) He was betrayed by the man + he believed he (= the man) was his right hand  
 主格の関係代名詞。
- (3) 主語になる名詞節を導く what [the thing which]。  
 これは Shakespeare の *Macbeth* 中の有名な言葉。
- (4) ○ 関係形容詞 what 「…するすべての～」  
 (5) ○ 関係形容詞 whatever 「…するどんな～でも」  
 ○ 関係形容詞 what 「どんな～でも」  
 (= Take any measure (that) you think is best.)  
 ○ measure 「手段」
- (6) ○ as is often [always] the case with ～「～にはよくあることだが」  
 ○ 主節の内容を先行詞にする疑似関係代名詞 as の用法。
- (7) ○ we do not envy a good fortune + we know it to be out of our reach  
 ○ know O to be C 「OをCだと考える」  
 ○ out of *one's* reach 「人の手の届かないところに」 ⇔ within *one's* reach

**[5]**

**解答・解説**

- (1) What  
 「私が困るのは、あの男が鍵を握っていることだ。」  
 ( ) puzzles me が主部。puzzles の主語が欠けているので、空所には先行詞と主格の関係代名詞の性質を兼ね備えたものがくる。
- (2) of which  
 「これはことわざだが、私にはその意味がわからない。」  
 This is a proverb + I do not know the meaning of it の of it の部分が、of which になると考える。
- (3) when  
 「我々がこの国を離れなければならない時がやって来る。」

time を先行詞とする関係副詞 when。

○ The time will come when … 「…する時が来る」

(4) for which

「君がスキャンダルに巻き込まれた理由を私に教えてくれ。」

Tell me the reason + You got involved in the scandal for the reason の for the reason の部分が for which になったと考える。

## 【6】

### 解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第2版』の参照番号を示す。

(1) put up

○ put up with ~ 「~を我慢する」 (= tolerate ~ ; stand ~) ◆59

(2) catch up

○ catch up with ~ 「~に追いつく」 ◆60

(3) come up

○ come up with ~ 「~を思いつく ; ~に追いつく」 ◆61

(4) get [keep], touch

○ get [keep] in touch with ~ 「~と連絡をとる」 ◆66

(5) into [in] contact

○ come into [in] contact with ~ 「~に接触する [出会う]」 ◆67

(6) ended up

○ end up with ~ 「最後は~で終わる」 ◆68

(7) up to

○ live up to ~ 「~に基づいて行動する ; ~に応える ; ~の期待に沿う」 ◆69

(8) looked up to

○ look up to ~ 「~を尊敬する」 (= respect ~) ◆72

⇔ look down on ~ (= despise ~) ◆73

(9) go, with

○ go along with ~ 「~に賛成する [付随する] ; ~と一緒に行く」 ◆74

(10) through [done]

○ be through [done] with ~ 「~を終える」

「終わりまで ; 終わってしまった」の意の through。

cf. go through with ~ (～をやり遂げる) ◆75

get through with ~ (～をやり遂げる) ◆76

(11) got [ran] away

○ get [run] away with ~ 「~を持ち逃げする ; ~をうまくやってのける」 ◆78

cf. You'll never *get away with* it! (そうは間屋がおろすものか。)

(12) done away

○ do away with ~ 「~を廃止する」 ◆79

- (13) go on  
○ go on with ~ 「～を続ける」 *cf.* go on ...ing (…し続ける) ◆ 80
- (14) getting along [on]  
○ get along [on] with ~ 「～とうまくやっていく；～の仕事がはかどる」 ◆ 81
- (15) speak ill  
○ speak ill of ~ 「～の悪口を言う」 ◆ 82  
⇔ speak well [highly] of ~ (～を褒める) ◆ 83
- (16) looking forward  
○ look forward to ...ing 「…するのを楽しみにする」 to は前置詞であることに注意。◆ 84
- (17) make up  
○ make up for ~ 「～の埋め合わせをする」 ◆ 92
- (18) put up  
○ put up at ~ 「～に宿泊する」 [= stay ~] ◆ 94  
*cf.* put up *with* ~ (～を我慢する) ◆ 59
- (19) dropped in  
○ drop in at 場所 [on 人] 「～にちょっと立ち寄る」 ◆ 95
- (20) his [the] way  
○ go out of *one's* [the] way to ... 「わざわざ…する」 ◆ 98

### 3章 総合問題3

#### 問題

【1】

A.

#### 全訳

自分自身の欠点を好むようになる人は多い。人はかくも容易にこう主張して自らを許してしまう。「㉔そうね、それが私なの。ただそれだけのことだわ。」㉕これは自分自身を進歩させることを厭っているというよりは、むしろ変化することを厭っているのである。成長とはより優れたものになること——それゆえにより優れたものに変わること、より優れたものに向かって前進することである。

B.

#### ポイント

キーワードは前半は superiority, 後半は authority であるが、これは同じこと。全体に教師 vs 生徒, 奴隷主 vs 奴隷を実例として対照的に論を進めているのでわかりやすい。要約するなら利害の方向, 優越の機能, 権威の距離, 心理的状况などで対立を軸にまとめる。

	前半 (キーワード: superiority)	後半 (キーワード: authority)
教師 vs 生徒	利害: 同方向 →優越の機能: 支援	力関係: 接近 →心理的關係: 敬愛・同化
奴隷主 vs 奴隷	利害: 逆方向 →優越の機能: 搾取	力関係: 疎遠 →心理的關係: 憎悪・反発

#### 解答

(1) improving [promoting; advancing] (2) 「全訳」の下線部㉕~㉖参照。

#### 全訳

教師と生徒との関係, および奴隷の主人と奴隷との関係は, どちらも前者の後者に対する優越を基盤にしている。教師と生徒の利害は同一方向にある。教師は生徒を進歩させることに成功すれば満足し, もしそれができなければ, 失敗したのは教師でもあり生徒でもある。これに対して奴隷の主人は奴隷からできるだけ多く搾取したいと思い, ㉕奴隷から多く搾取すればするほど満足する。㉖しかしその一方で, 奴隷は最小限の幸福に対する自分の要求をできるだけ守ろうとする。一方にとって利益になることは他方にとっては不利益になるので, 両者の利害ははっきり対立している。両方の場合で優越は異なった機能を果たす。すなわち, 第一の場合には優越は権威に従わされている人を援助するための条件であり, 第二の場合には彼らを搾取するための条件である。これら2つの型における力関係もまた異なっていて, 生徒が多くのことを習得すればするほど, 生徒と教師の間の隔たりは狭くなる。生徒はますます教師自身に似てくる。㉔言い換えれば権威関係は消滅する傾向にある。しかし権威が搾取の基盤の役割を果たしている場合は, それが長く続く間に両者の隔たりは強められ

る。これらの権威関係のそれぞれでは心理的状況も異なる。第一の場合は愛情、尊敬、感謝といった要素が支配的である。㉔権威は同時に、人が部分的または全面的に自分がそれに同化したいと思う模範でもある。第二の場合には搾取者に従うことは自分自身の利害に反するので、搾取者に対する憤懣<sup>ふんまん</sup>や敵意が生じるのである。

## 【2】

### 解答

- (1) 「全訳」の下線部㉔を参照。
- (2) 「全訳」の下線部㉕を参照。
- (3) 「全訳」の下線部㉖を参照。
- (4) c      (5) a

### 解説

- (1) ◇ Looking back 「時」を表す分詞構文。
  - ◇ it seems most odd that … 「…は極めて奇妙なことに思える」
  - it seem ~ that … 「…は~であるように思われる；~のようだ」  
it は that 以下を指す形式主語。
  - most *adv.* 「とても」 (= extremely, very)
  - odd *adj.* 「変わった」
  - ◇ never once in all the years that I was at school was there any general discussion about careers
  - 否定を含む副詞句 (= never once in all the years) が頭に出ているので、倒置が起こる。
  - that I was at school は all the years を先行詞とする関係副詞節。
- (2) ◇ the importance of being made to learn ~ 「~を学ばされるという大切さ」
  - of 「~という」「同格」を表す前置詞
  - being made to … *cf.* make O … 「Oを…させる」《使役動詞》
  - 使役動詞 make  
能動態では make O … と原形不定詞がくる。  
受動態では be made to … と to が必要となる。  
*Ex.* He made me stay home. 《能動態》  
I was made to stay home (by him). 《受動態》
  - ◇ things that one does not like
  - that は things を先行詞とする目的格の関係代名詞。
- (3) ◇ what geometry was for 「幾何学は何のためにあるのか」
- (4) ◇ the subject would immediately have assumed ㉔ a thrilling romance  
「その科目はすぐにも㉔胸のわくわくするようなロマンスとなっていただろう」
  - the subject は geometry のこと。
  - thrilling *adj.* 「わくわくさせる；ぞくぞくさせる」
  - romance *n.* ≙ interest in adventure

(5) b 本文に記述なし。

○ doing exercises in a gymnasium 「体育館で体操をすること」

ℓ. 15 mental gymnastics 「精神鍛練」という言葉があるが、内容をしっかり捉え、惑わされないこと。

c 筆者の考えとはまったく逆のことである。

○ learn ~ by heart 「~を暗記する」

d 本文に記述なし。

**全訳**

私の経験では、人生において何をなすべきかという問題は、私の教育に責任のあった人々によって少しも簡単なものとはならなかった。④振り返ってみると、私が在学していた全年月において、職業についての全般的な討論が一度もなかったのは極めて奇妙なことに思われる。学校へ行く主な目的は、人生に対して準備することであろうから、普通の知性を持った者に開かれている多種多様な職業に関する広い視野を、少年たちに与えるように計画された講義や討論を準備することは、きっととてもたやすく、また実際の価値もあっただろう。もちろん、生まれた時から父親の職業を継ぐように運命づけられた少年たちですら、より広い視野を垣間見ることから、利益を得ることができただろう。後年、私は、以前は夢にも思わなかった仕事をしている人々によく出会った。そして、学校で教えられていたなら、それらの仕事は私をわくわくさせただろう。このように学校でまったく仕事に関して教えてもらえなかったのは、あまりにも多くの先生たち自身が、非常に狭い考え方しか持っていなかったからだと思う。時間をすべて厳密なカリキュラムに沿うように費やしているうちに、自分の生徒が試験に合格することが、徐々に彼らの職業生活のあらゆる目的になってしまったのだ。⑤私は、好きではないことを学ばせられる大切さを認めるけれども、若者の心にすべての教育が頭の体操の一形態なのだという印象を与えるのは、確かによいことではなかった。例えば、私はかつて幾何学をかなり面白いと思った。それで、教えられている学問は、実用的価値があるのかもしれないという素朴な考えをまだ抱いていた時、⑥私は幾何学は何のためにあるのか尋ねてみた。私の得た答えは、幾何学が問題を解くのに役立つということだけだった。もし、その代わりに、その言葉がギリシア語の *ge*、つまり地球と、*metron*、つまり物差しという意味に由来し、私が取り組むように求められた無意味な三角形が、地理的探検や天文学や航海の基礎をなすものだという簡単な事実を教えられていたなら、幾何学はすぐにも胸のわくわくするようなロマンスとなっていたことだろう。そしてさらに、幾何学は、私の心の中で、私が一番興味のある事柄と直接関係づけられたことだろう。

**注**

ℓ. 1 ◇ the problem of ~ was not made any easier 「~という問題は、少しも簡単にはならなかった」

○ make O C 「OをCにする」

◇ those who … 「…する人々」

ℓ. 2 ◇ be responsible for ~ 「~の責任がある」

ℓ. 4 ◇ As presumably the main object of going to school is to prepare for life

○ as 「~だから；なので」 《「理由」を表す接続詞》

- presumably *adv.* 「《文修飾》 どうも～らしい；多分～だろう」
- to prepare は補語になる名詞用法の不定詞。
- ◇ it surely would have been very easy and relevant to …
- it は to … 以下を指す形式主語。
- would have been は to organize ～の仮定を受け、仮定法過去完了になっている。
- relevant *adj.* 「実質的な価値がある」
- ℓ. 5 ◇ lectures or discussions designed to … 「…するように計画された講義や討論」
- designed to … は lectures or discussions を修飾する。《分詞の形容詞用法》  
design to … 「…しようと（入念に）計画する」
- ℓ. 7 ◇ be destined to … 「…するように運命づけられている」
- ◇ ～ could have gained benefit from glimpses of a wider horizon 「～は、より広い視野を垣間見ることから、利益を得ることができただろう」
- could have gained 《仮定法過去完了》  
「もし、講義や討論が準備されていたなら」という仮定の条件が言外に含まれる。
- gain benefit from ～ 「～から利益を得る」
- glimpse *n.* 「ちらりと見えること；ひと目」
- horizon *n.* 「視野；展望」
- ℓ. 8 ◇ come across ～ 「(偶然) ～に出くわす；会う」
- ℓ. 9 ◇ people doing jobs that I never dreamed of
- doing … 以下は people を修飾する。《分詞の形容詞用法》
- that は jobs を先行詞とする目的格の関係代名詞。
- dream of [about] ～ 「～を夢見る」
- ◇ and which would have thrilled me *had I been told* about them at school 「在学中に話を聞いていたら私をわくわくさせたであろう仕事」《直訳》
- which は jobs を先行詞とする主格の関係代名詞。
- 仮定法過去完了の文であることに注意する。which would have thrilled me が帰結節、had I been told about them が条件節。
- had I been told about them は if が省略されているために、had が頭に出ている。
- them = jobs
- ℓ. 10 ◇ this extraordinary omission 「この驚くべき怠惰」《直訳》
- extraordinary *adj.* 「驚くべき；並外れた」
- omission *n.* 「怠慢」  
具体的には、「学校が職業に関しての教育をすべきだったのにしなかったこと」を意味する。
- ℓ. 11 ◇ that は補語の名詞節を導く接続詞。
- ◇ so many schoolmasters had themselves such a restricted view 「あまりにも多くの先生たち自身が、非常に狭い考え方しか持っていなかった」
- themselves 「自分自身；自ら」《強調用法》  
*Ex.* They must do the work *themselves*.

(彼らは自分たちでその仕事をやらねばならない。)

- ◇ Spending all their time working ~
  - 「理由」を表す分詞構文。
  - spend O (時間) …ing 「O (時間) を…して過ごす」
- ℓ. 12 ◇ the passing of examinations は pass the examinations の名詞化表現。「目的格関係」を表す of。
- ℓ. 14 ◇ it was not good to … 「…することはよくない」
  - it は to … 以下を指す形式主語。
  - ◇ the impression that … 「…という印象」
  - that は同格節を導く接続詞。
- ℓ. 15 ◇ used to … 「(かつては) …だった」《過去の状態》
  - ◇ find O (to be) C 「OをCだとわかる；思う」
- ℓ. 16 ◇ the naive idea that what I was being taught might have some practical value  
「教えられている学問は、ある実用的価値があるのかもしれないという素朴な考え」
  - naive *adj.* 「単純な；世間知らずの」
  - that は the naive idea の同格名詞節を導く接続詞。
  - what は先行詞を含む関係代名詞で that 節内の主語である。
  - might [may] は「可能性・推量」を表す助動詞。
- ℓ. 17 ◇ The only answer (that) I got was that …
  - that … 以下は補語になる名詞節。
- ℓ. 18 ◇ it taught one how to solve problems  
「それは人にどのように問題を解くのかを教える」《直訳》→「幾何学は問題を解くのに役立つ」
  - it = geometry
  - ◇ If, (挿入), I had been told the simple fact that …, and that ~, the subject would immediately have assumed …, and, (挿入), it would have been directly connected ~
  - 仮定法過去完了の文。帰結節が2つあるので注意すること。
  - the simple fact that …, and that ~ 「…と～という簡単な事実」  
that … と that ~ は the simple fact の同格名詞節。
  - assume *vt.* 「(性質など) を帯びる」
- ℓ. 19 ◇ the word was derived from the Greek *ge*, the earth, and *metron*, a measure
  - be derived from ~ 「～から由来する」
  - *ge* と the earth, *metron* と a measure はそれぞれ同格関係である。
- ℓ. 20 ◇ the meaningless triangles that I was asked to deal with formed the basis of ~
  - that I was asked to deal with は the meaningless triangles を先行詞とする関係代名詞。
  - deal with ~ 「～を扱う」
  - form the basis of ~ 「～の基礎をなす」
- ℓ. 21 ◇ navigation *n.* 「航海」 *cf.* navigate *vt., vi.*

0. 22 ◇ what is more 「(文頭・文中で) その上」 (= moreover) 《文修飾》

◇ it would have been directly connected in my mind with the things that most appealed to me 「それは私の心の中で私に最も強く訴えたものと直接に結び付けられたことだろう」《直訳》

○ it = the subject = geometry

○ connect A with B 「AをBと関係づける；AでBを連想する」  
(A = it, B = the things that …)

○ that は the things を先行詞とする主格の関係代名詞。

○ appeal *vi.* 「気に入る；(人の心に) 訴える」

### 【3】

#### ポイント

自由英作文には、答えの方向がある程度限定されているものと、個人個人の考え方や発想によってさまざまな書き方ができるものがある。この問題は後者に当たる。このような設問の場合、読む人があらかじめ何らかの前提を持っているわけではないので、誰が読んでも状況や意味がはっきりとわかるような文章を書くことが大切になってくる。自分ではわかりきっているつもりのことでも他人にとってはそうではないかもしれない、ということを常に念頭に置いて書くことが必要である。

#### 解答例

I'd like to live in Tokyo. It is true the cost of living is high and you have to commute on jam-packed trains, but Tokyo is full of vigor and excitement. If you're ambitious and active, the city will offer you a good chance to display your ability. Moreover, there is no place like the metropolis when it comes to shopping and entertainment. (63 語)

#### 別解

I'd like to live in Nagoya, because Nagoya is located in the center of Japan, and also between Tokyo and Osaka, the two biggest cities in Japan. Nagoya is a big city, but not as crowded and expensive as Tokyo. You can get almost everything you want, and there is enough entertainment to keep you busy and active. (58 語)

#### 別解

I'd pick Nara. Nara is an ancient capital of Japan and has many places of scenic beauty and historic interest. I like the quiet atmosphere with lush greenery. In addition, Nara provides easy access to Osaka or Kyoto, so I can easily visit these big cities and enjoy their modern facilities. I think Nara is a good place to live and raise children. (63 語)

#### 解説

住んでみたい場所は自由に選択できるので、現在自分の住んでいる場所でも、かつて住んだことのある場所でも、あるいはまだ暮らしたことはないが住んでみたいと希望する場所でももちろん差し支えない。しかし「私は東京に住みたい。名古屋にも住みたい。または奈良にも住みたい。…」などと場所を列挙しただけではあまりにも幼稚な文章になってしまう。大切なのは場所の選択よりもむしろその理由だ。一般に納得できる理由や動機であることが

必要である。したがって、取り上げる場所は1つに絞り、その理由部分に語数を割いて具体的に描写する方が説得力が出る。

個人個人の好みや希望は多種多様で、例を挙げてもきりが無いが、「解答例」としては東京、名古屋、奈良の3都市の場合を挙げておく。いずれの「解答例」にせよ、

「自分はどこに住みたいかという**定義づけ**」 I would like to live in ~

↓

「その場所を選んだ**理由や具体例**」 2~3個

↓

(「**感想**」「**まとめ**」など)

という構成になっており、これが最も一般的な構成と言えるだろう。

「解答例」で使った語句を中心に、使えそうなものをいくつか挙げておく。

- 「生活費〔物価〕が高い〔安い〕」 the cost of living is [prices are] high [low]
- 「満員の」 jam-packed
- 「活気と刺激にあふれた」 full of vigor and excitement
- 「才能を発揮する」 display one's ability
- 「文化〔公共〕施設」 cultural [public] facilities
- 「古都」 an ancient capital
- 「名所旧跡」 places of scenic beauty and historic interest
- 「豊かな緑」 lush greenery
- 「落ち着いた雰囲気」 a quiet atmosphere
- 「交通の便」 access, facilities for travel
- 「大気汚染や騒音公害のない」 be free of air and noise pollution
- 「きれいな〔汚れた〕空気」 clean [foul] air
- 「ゆったりとした生活様式」 a relaxed life style
- 「異国情緒のある」 have an exotic atmosphere
- 「季節の変化」 the change of seasons
- 「自然の美しさ」 natural beauty
- 「温暖な気候」 a mild climate
- 「人情が厚い」 warm (-hearted) (主語は‘人’)
- 「地方の」 country ; rural cf. suburban (郊外の), urban (都会の)

#### 【4】

**解答**

- (1) less diligence (2) a (3) b (4) c (5) d (6) b

**解説**

- (1) 「彼は彼の妹ほど勤勉な労働者ではない。」

He is a diligent worker を、一般動詞を用いて表す。動詞は works となり、形容詞 diligent は動詞を修飾する副詞 diligently になるところだが、with があるので副詞と同じ意味を表す‘with + 抽象名詞’にする。

○ not so A as B = less A than B

- (2) 「暑いと食欲がなくなりがちなので、冬より夏の方が体重は増えにくい。」  
後に than が出てくるので、単なる原級の c, d は不可。文意から less likely (より…しそうでない) を選ぶ。
- (3) 「よかった。電車がすいてきた。座れるぞ。」  
Good. → The train is ( ) crowded now. → I can get a seat. と談話が進んでいるので、less が適当。
- (4) 「彼女は自分の下宿代を払うのがやっとで、まして妹の分までは無理だった。」  
○ 否定文, much [still] less … 「まして…ない」  
○ barely 「やっとのことで」
- (5) 「その男は彼女をちらりとも見ずに通り過ぎた。」  
○ without so much as …ing 「…すらしないで」
- (6) 「学ぶのをやめる人は死人も同然である。」  
○ as good as ~ 「～も同然で」

## 【5】

### 解答

- (1) more      (2) c      (3) c      (4) b  
(5) (a) such, as      (b) more, than      (6) wisest      (7) number of  
(8) b      (9) e      (10) a      (11) a      (12) d

### 解説

- (1) 「彼は学者というよりはむしろ作家である。」  
○ not so much A as B = more B than A 「A というよりむしろ B」
- (2) 「その姉妹のうち彼女の方が背が高い。」  
○ 二者の比較を表す場合、比較級に the が付く。
- (3) 「その国では1平方マイルあたり1,100人もの(多くの)人々が住んでいる。」  
○ as many as … 「(「数」について) …もの多くの」  
cf. as much as … ((「量」について) …もの多くの)  
○ square *adj.* 「平方の」  
**b** so [as] many 「同数の」  
cf. She read five books in so [as] many months. (彼女は5カ月で5冊の本を読んだ。)
- d** so much as 「(not ; without を伴って、または条件節で) ~さえも (…ない)」  
cf. He cannot so much as write his own name.  
(彼は自分の名前を書くことさえもできない。)
- (4) 「彼がいつ解雇されるのかさっぱり見当がつかない。」  
○ haven't (= don't have) the faintest [slightest ; foggiest ; first ; remotest ; least] idea 「皆目見当がつかない」  
この表現の場合、米でも haven't を用いることがある。

- (5) 「あれは私がかつて見た中で最も感動的な映画だった。」  
最上級の原級と比較級を用いた書き換え。
- (6) 「どんなに賢い人であろうとも、時々間違いを犯す。」  
even (～でさえ) の意味を含む最上級の用法。  
○ no matter how ～ S may be 「Sがどんなに～であっても」‘譲歩’を表す副詞節。
- (7) 「彼は私の3倍のレコードを持っている。」  
○ X times as ～ as A 「AのX倍の～」  
○ X times the ～ (=名詞) of A 「AのX倍の～」  
この場合レコードの枚数、つまり「数」について述べているので number を入れる。
- (8) 「彼女は美しいというよりはかわいらしい。」  
同一人物の異なった性質や状態を比較する時は、通例は -er 型に規則変化する語であっても more を使う。しかし than 以下の S V (be 動詞) を省略しなければ、-er 形を使える。(= She is prettier than she is beautiful.)
- (9) 「家にいてパイプを吸いながら本を読んだ方が、映画を見に行くより心地よいと思う。」  
○ more comfortable があるので than が続く。  
a better が不要。  
c prefer を用いる場合は I prefer to stay at home with a pipe and a book rather than (to) go to the cinema. となる。  
cf. prefer A to B (BよりAの方を好む)
- (10) 「ここでは平地の2倍も頻繁に雨が降る。」  
○ X times as ～ (=原級) as A 「AのX倍～である」
- (11) 「地球から月までの距離は、地球の直径の30倍にほぼ等しい。」  
○ X times ～ 「～のX倍」  
times の前置詞的な用法。  
cf. Four times five is twenty. ( $5 \times 4 = 20$ )  
cf. X times the ～ (=名詞) of A 「AのX倍の～」  
○ be equivalent to ～ 「～に相当する」  
○ diameter 「直径」 cf. radius (半径)
- (12) 「我が国の人口はあなたの国の人口の2倍以上である。」  
○ (more than) double ～ (=名詞) 「2倍(以上)の～」  
cf. Four is double two. (= Four is the double of two.)

## 【6】

### 解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第2版』の参照番号を示す。

- (1) (A) consist (B) in ◆99  
○ consist in ～ 「～にある」 [= lie in ～]  
cf. consist of ～ (～から成り立つ) ◆100
- (2) (A) consists (B) of [解説(1)参照] ◆100

- (3) (A) result (B) in ◆101  
 ○ result in ~ 「～という結果になる」  
*cf.* result from ~ (～の結果として生じる) ◆102
- (4) (A) attend (B) on ◆103  
 ○ attend on ~ 「～に仕える」  
*cf.* attend to ~ (～に注意する) ◆104
- (5) (A) attending (B) to [解説(4)参照] ◆104
- (6) (A) corresponds (B) to ◆110  
 ○ correspond to ~ 「～に相当する」  
*cf.* correspond with ~ (～と文通する) ◆109
- (7) (A) deal (B) in ◆111  
 ○ deal in ~ 「～(=商品など)を扱う」
- (8) (A) dealt (B) with ◆112  
 ○ deal with ~ 「～を処理する」ここでは受動態。
- (9) (A) agree (B) with ◆113  
 ○ agree with ~ 「～の体質に合う」
- (10) (A) run (B) of ◆117  
 ○ run out of ~ 「～を切らす」 *cf.* run short of ~ (～が尽きる) ◆118
- (11) (A) passed (B) away ◆122  
 ○ pass away 「死ぬ」dieの婉曲表現。
- (12) (A) stand (B) by ◆123  
 ○ stand by ~ 「～に味方する」
- (13) (A) stands (B) for ◆124  
 ○ stand for ~ 「～を表す」
- (14) (A) interfere (B) in ◆126  
 ○ interfere in ~ 「～に干渉する」  
*cf.* interfere with ~ (～の邪魔をする) ◆125
- (15) (A) asked (B) for ◆130  
 ○ ask for ~ 「～を求める」
- (16) (A) succeeded (B) in ◆135  
 ○ succeed in ~ 「～に成功する」  
*cf.* succeed to ~ (～を相続する) ◆136  
 ※それぞれの意味の名詞・形容詞形に注意 → success (成功); successful (成功した); succession (連続); successive (続いての); succeeding (続いて起こる)
- (17) (A) apply (B) for ◆140  
 ○ apply for ~ 「～に申し込む」 *cf.* apply to ~ (～に当てはまる)
- (18) (A) apply (B) to [解説(17)参照] ◆141
- (19) (A) entered (B) into ◆142  
 ○ 建物など具体的な物に「入る」場合は他動詞の enter を用いるが、本問のように、

抽象的な何かに「入る」場合は自動詞の enter を用い, enter into ~ となる。

(20) (A) believe (B) in ◆144

○ believe in ~ 「～の存在を信じる」